

## IACP 年次総会で学んだソーシャルメディアの有用性

ニューヨーク事務所

2013 年 10 月 19 日から同月 23 日までの間、ペンシルベニア州のフィラデルフィアにおいて開催された「国際警察長協会（以下「IACP」）」の年次総会に出席しました。その際、警察活動におけるソーシャルメディアの有用性について認識を改める機会がありましたので、ご紹介します。

### 1 IACP とは

IACP (International Association of Chiefs of Police) とは、もともと米国における市町村、郡、州警察間の質の不均衡を是正することを目的として、1893 年（明治 26 年）、各警察組織の代表者により設立されました。



その後、米国内のみならず、世界中の上級警察幹部を対象としたセミナーや、組織間の連携強化を目的としたイベントの開催などを主催する国際的な機関として発展を遂げ、1974 年（昭和 49 年）には、国際連合の公式諮問機関として認定されました。2013 年現在、IACP の会員は世界 100 か国に跨り、その会員数も 2 万人を超えています。

年に一度、米国内の大都市において総会が開催されており、120 回目の記念式典となった今回は、米国の独立に深い縁のある古都フィラデルフィアにおいて開催され、世界 90 か国を超える国々から 1 万人以上が参加しました。

また、700 を超える企業が EXPO HALL においてブースを設け、そこでは銃器や無線機といった個人装備品から、ヘリコプターや船舶のような巨大な乗物にいたるまで、あらゆる警察関係の装備品が展示されていました。

人々と装備品で溢れかえる会場内は、さながら世界警察博覧会とも呼べるような様相でした。



IACP 総会において展示されていた警察関係の装備品など

## 2 ソーシャルメディアのセッションに参加

本総会では、期間中 200 を超えるセッション（セミナー）が催されました。

一言でセッションといってもその中身は、テロ対策、災害対策、DNA解析、取調べの手法などといった実務的なものから、メンタルヘルスの重要性、アルツハイマーの予防策といった健康管理に関するものなど、極めて多岐に渡っていました。

その中で一際目を引いたのは、ソーシャルメディアをキーワードに掲げるセッションの多さです。

かねてより、ソーシャルメディアについて興味があったこともあり、いくつかのセッションに参加してみましたが、最終日に参加したセッションでは、警察組織におけるソーシャルメディアの有用性について事例を挙げての説明がありました。

セッションの出だしは、バージニア州リッチモンド市警察（以下「リッチモンド市警」）の警察官が酔っぱらいを制圧する場面を撮影した動画を視聴することから始まりました。

2013 年 3 月のある日曜日の午後のことです。リッチモンド市の Shockoe Bottom という繁華街で大規模なお祭りが催されました。報道によると、当時 3 万人近い人々が集まっていたそうですが、お祭りということもあり、酔っ払って暴れた観衆の中から 5 名の逮捕者が出ました。やがて、その状況を一部撮影した動画が「YouTube」にアップされたのですが、その動画を見た市民の間で、逮捕時における警察官の行為は過剰ではないかという論争が起こったのです。

リッチモンド市警も、こうした市民の声を無視することはできず、祭りの際に逮捕者が出たという事実について発表すると同時に、逮捕時における警察官の職務執行が適切なものであったかどうかについても「調査中」と発表しました。

約 8 分の動画では、酔っ払って悪態をついてきた男性を、警察官が制圧する場面が生々しく録画されています。



YouTube に投稿された動画の一場面

[http://www.youtube.com/watch?v=ARUcC8L8Q84&oref=http%3A%2F%2Fwww.youtube.com%2Fwatch%3Fv%3DARUcC8L8Q84&has\\_verified=1](http://www.youtube.com/watch?v=ARUcC8L8Q84&oref=http%3A%2F%2Fwww.youtube.com%2Fwatch%3Fv%3DARUcC8L8Q84&has_verified=1) より

### 3 How to use of force in the Digital Age

動画を視聴した後、講師として壇上に上がったリッチモンド市警の広報担当者から、デジタル時代における「Force (フォース) = 力」の使い方についての講義がなされました。本セッションには「Use of Force in the Digital Age」というタイトルが付けられていましたが、講師曰く、この「Force」には二通りの意味があるとのことでした。

一つは、前述の動画のような荒れた現場において、相手を押さえつけるために発揮する「有形力」を意味します。警察官は、いかなる時も、その職務執行について市民から録画されている可能性があることを念頭におき、より適正な有形力の行使に努めなければならないという点が強調されていました。

もう一つの意味は、ソーシャルメディアそのものを警察の「ツール」として活用することが、市民との信頼関係の醸成において極めて有効であるとの点でした。

リッチモンド市警では、以前からのこの点に力を入れているようで、同市警のホームページでは、毎月、「Officer of the Month」として現場の警察官個人を紹介する動画がアップデートされています。講師曰く、同市警の警察官が自分の声で市民に語りかけ、普段の勤務状況や生い立ちなどについて紹介するこの動画は、警察官をより身近に感じてもらうことに大いに貢献しているとのことでした。

The screenshot shows the Richmond Police Department website. On the left is a navigation menu with links like 'Chief of Police', 'Organization', 'Departmental Info', 'Newsletters', 'Justice Assistance Grant', 'Forms', 'FAQ', and 'Human Resources Division'. Below that is 'Contact Information' for the Richmond Police Dept. and 'Quick FAQs'. The main content area is titled 'Officer of the Month: September 2013' and features a photo of Officer Kevin Hyde in uniform. Below the photo is a video player showing Officer Hyde speaking. Under the video, there is a congratulatory message: 'First Precinct Officer Kevin Hyde is the Richmond Police Department Officer of the Month for September! Officer Hyde was born and raised just a few blocks from First Precinct in Richmond - and now is patrolling his old neighborhood! In the video, Officer Hyde gives a Ride-Along to a student and tours some of the areas where First Precinct officers have been so successful. Congratulations Officer Hyde!'.

リッチモンド市警のHP「<http://www.ci.richmond.va.us/Police/index.aspx>」における「Officer of the Month」のページ  
個々の警察官へのインタビューだけではなく、その生い立ちまで詳しく紹介されている

### 4 Police Forceとしての活用を

ソーシャルメディアの発達により、人々はいつでもどこでも動画を撮影し、それを公開できるようになりました。一般的に考えれば、こうした技術の発達は「社会における新たな表現方法」の確立として歓迎されるべきものでしょう。



その反面、今回のリッチモンド市警の事例にあるとおり、警察の活動は常に市民の監視に晒されるようになりました。もちろん、警察官が法の執行者である以上、その職務執行が適法かつ適切になされるべきであることは当然であり、その原則を維持できているならば動画を撮影されることに何ら臆することはない、というのが正論です。

しかしながら、正論のみで語る事が出来ないのも、また警察の現場です。

混沌とした現場の中では、時として力で相手を制圧することが求められます。そうした現場の度に批判に晒されているのは、現場の警察官は萎縮せざるを得ず、結果として酔っ払いのような無法者を排除することすら難しくなるでしょう。

このような懸念もあり、私は、昨今のソーシャルメディアの発達が警察活動に及ぼす影響については、プラス面よりもマイナス面が大きいのではないかと考えていました。しかしながら、前述のセッションに参加したことで、逆にこうした技術の進歩を積極的に活用することにより、プラス面がマイナス面を上回ることは十分に実現可能であるとの考えに至りました。

ソーシャルメディアを介し、積極的に個々の警察官をアピールし続けるリッチモンド市警の施策は正にその一端だと思います。実際、前述の動画に対して寄せられた市民からのコメントには、警察官を非難するものよりも、毅然とした警察官の職務執行を称賛するものが圧倒的に多かったそうです。

日本でも、警察官の職務執行を撮影した動画が、数多くインターネットに投稿されるようになりました。そしてその数は、今後も益々増えていくものと思われます。

セッションを聴き終えて、日本の各警察組織が、ソーシャルメディアを Police Force として積極的に活用する時代が来る日は、そう遠くないことのように思われました。

なお、来年度の IACP 年次総会は、2014 年 10 月 25 日から同月 28 日までの間、フロリダ州のオーランドにて開催されます。是非、来年も参加して今回のような新たな発見に出会いたいと思います。

(松重所長補佐 警視庁派遣)